

大野ノ事

アンキセル調書第八

4065



114
A1314
1



セル調書第八

大野平野ノ事

北海道ノ南ニ出タル地 渡島館ハ宮館ノ左方ニ於テ

二枝ニ分レ以テ惠山ト松前トノ二高地ヲ為ス其地

形殆ト樺太ニ彷彿タリ此兩山脉ノ間南ノ方ニ宮館

ノ港アリ北ノ方ニ大野ノ平野アリ○其野ノ形不齊

ナル三角形ニシテ南東ノ方廣シ而テ北方ニ及ビ正

トモ湾ノニカニト同緯度ノ所ニ至テ茲ニ兩脉相合

大正十一年四月
大隈侯爵郵

テ一山脉ト為リ、其ニ北方ニ走り大高地ヲ成シ以テ
トシベツノ平野ニ及フ。○大野ノ畧圖ヲ添タリ以テ
其地勢ヲ見ル可シ

此平野ハ殆ト宮館ノ直北ニアリ宮館ヨリ湾ニ沿ヒ
北ニ向テ道路アリ以テ直ニ此野ニ達ス可シ。○此野
ノ南東ノ端ニ岡山アリテ半ハ此野ヲ宮館ト分別ス
其岡山ハ南東ニ走り惠山ト相接スル山脉ト連続ス
ル者ナリ。○此等ノ境界山脉ヲ云ヲ以テ平野ノ地面ヲ測

ルニ北ヨリ南ニ三里半南ノ隅ニ當ル所東ヨリ西ニ
二里半トス

兩山脉ノ麓永ク延ヒ其傾キ下ルテ急ナラス地漸ク
低ク殆ト野ノ中央ニ至テ止ム而テ西方ニ傾クテ多
キヲ以テ大野川此斜面ニ沿シ下リ以テ宮館港ニ注
ス。○双方ノ山脉ヨリ奔流スル數十ノ小流ハ大野河
其他此野ヲ貫注スル諸河ニ入ルナリ大野河ノ外他
ニ記スヘキ者ハコシク河ノミ此河ハ平野ノ南隅

ニ在リ又七野ノ北東ノ山脈ヨリ出ル一河ハ七重ノ
近傍ニ於テ大野河ト合ス

斯ノ如キ河多ケレハ此野水利ニ乏シカラス又東西
ニ山アリテ烈風（此風屢ニ吹キ起リ甚タ植物ニ害
アリ）ヲ防クカ故ニ島中最モ耕作ニ宜シキ地ナリ
○大野村繁栄ニ至ルヘキ場所ト思ハル方今此平野
中諸方ニ小村斑別スレモ耕作セル地面ハ甚タ少ナ
シ○此野ノ上東山ノ麓ニ七重アリ茲ニ政府ノ耕作

園アリ其地野ノ斜ナル所ニ位スルヲ以テ水利ニ宜
シク且ツ南西ニ面スルヲ以テ日光及ヒ暖氣ヲ受ル
ヲ多シ其開墾ノ地面ハ二百六十乃至三百アケル（
ニ間）ナリ方今其半ハ數十ノ移民之レヲ領シ其内
ノ小部分ハ耕作ス又其餘ノ半ハ監督一人之ヲ支配
ス余此地ヲ見分セル中其人ニ逢タリテ植付タル品
ハ米、烟草、麻、亜麻、小麦、燕麦、林檎、梨、桃、蕪、蔬菜、葱、其他ノ
野菜ナリ耕作ノ道具多クアリ地面及ヒ地下ヲ掘

ル鋤鉋、クワ、ト、ク、ロスセル土塊ヲ碎ク者、草苧道具及ヒ畦
ヲ作ル器械等アリ皆亞製ニ非ス英又ハ日耳曼製ニ
シテ重キ堅木ヲ以テシ或ハ総体鐵ヲ以テ造レル者
ナリ此道具ハ蔵テ之ヲ用フルコトナシ余思フニ此道
具ハ無用ナルニアラズ其用方ヲ知ラサルヲ以テ貯
エ置ノミ其故ハ彼地ノ監督其用方ヲ余ニ質問シタ
レハナリ然レトモ此道具類ハ此野ノ如キ地ニ用ル
ニハ甚タ不便ナリ多クハ二匹或ハ四匹ノ馬（或ハ

牛）ニテ牽ク者ニシテ地質ニ相應セサルナリ彼地ハ
一面粉末ト為ルヘキ「砂、石、炭、炭酸、石灰、鐵、塩、分、動、植、兩、物、ノ、変、敗、セ、ル、者」
土質ニ黑色ノ泥炭質ノ者ヲ多ク含メル土ニシテ
地上ヨリ十乃至十八或ハ廿四「インチ」ノ深サニ至ル
又其下ノ土ハ石多クシテ三角或ハ六角形ノ「ペツ」フ
ル小石ヨリ成ル土質ヲ交ユ○此地ノ土質右ノ如クナレハ輕
便ナル鋤及ヒ其他ノ道具等最モ相應ナル可ニ此等
ノ呂ハ右道具ノ内ニアルコトナシ

故ニ余ハ此重キ地銀ノ類ハ之レヲ札幌ニ移サハ却
テ用多カラント思フナリ無用ナル鋤ハ貴府ノ周圍
ニ公道ヲ造ルニ用ユ可シ○案ルニ七重ニ耕作園ヲ
置クモ一ノ目的ナシ素ト地所ノ撰ニ万惡シ免許ノ
地面政府ヨリ貸渡
タル地ヲ云カ中ニ土人カ所持セシ地所ヲ包括
シタルハ其者等ト免許ヲ受タル者トノ間ニ耕作及
ヒ秣ヲ芥ルノ權理ニ就テ從來爭論絶ル丁ナシ須ク
其本主ニ爭フ所ノ地ヲ返シ與ヘ餘ハ別方ヲ以テ之

レヲ分附スヘシ方今政府ニ於テ耕作スル地面ハ三
十ヤケル許ナレハ利益ナシ失費ヲ債フニ堪ヘス又
耕作ノ道ヲ教ルノ用ニモ互ラサレハ政府之ヲ固持
スルモ益ナシ故ニ其道具諸類ハ之ヲ移シ地面ハ總
テ之レヲ割り渡サン丁ラ勸ム畜獸ハ牛二十七頭馬
四十七匹ノミ牛乳又ハ牛酪ヲ製スル丁ナシ
此野ノ上部山ニ近キ
ヲ云フカ所ハ野生ノ雜草多シ村人牛馬
ノ牧野トス又下部海岸ニ近キ
所ヲ云フカハ水地多シテ秣トス

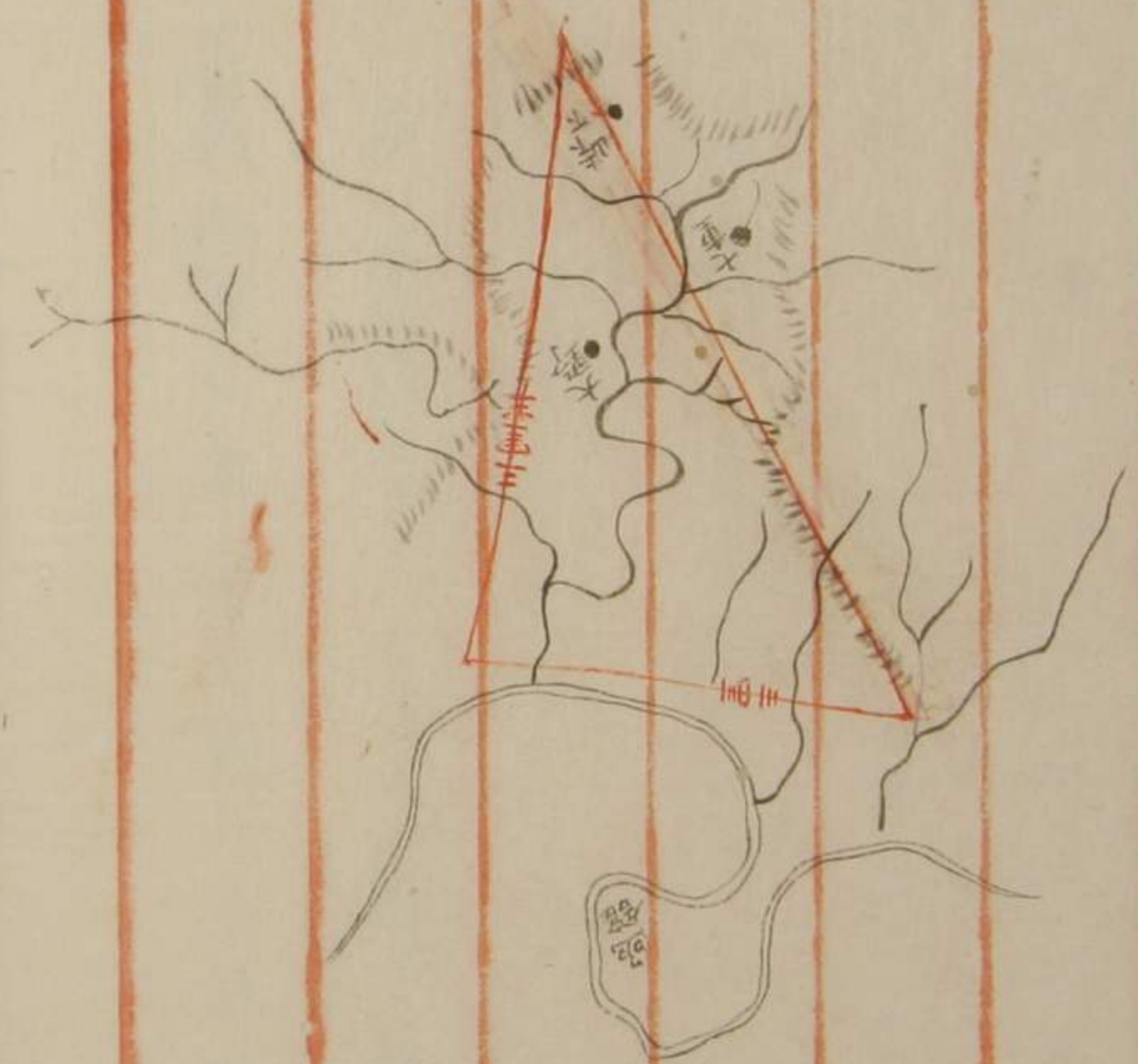
大政官
へキ草ヲ作り或ハ地ヲ耕作スル能ハス然レモ巧ニ
溝ヲ作り水ヲ排除セハ改正スルコトヲ得ベク耕作及
ヒ住居ノ大ナル地面ヲ開クコトヲ得ハシ

余此野ノ豊饒ナル島中他ノ所ニ勝ルニ感セリ前文
ニ述ル如ク左右山高クシテ東及ヒ西風ノ寒氣ヲ防
キ南ハ打開キシ暖氣ヲ引ク可シ故ニ夏分温和ナル
而已ナラス北海道中最モ氣候暖和ナリ。米、甘薯、烟
草及ヒ玉黍ノ如キハ本古内又ハ上ノ國河谷ノ平野

ヨリモ能ク産ス可シ玉黍ヲ除クノ外ハ現々繁生ス
本古内上ノ國ハ同緯度ナレモ北及ヒ南ノ方ニ出ル
ヲ以テ寒氣ニ感ルコト多シ

此大野ノ野ニ政府ノ耕作園ヲ開キ耕作ヲ教ル場所
トナセルハ其所ヲ得タリト云フベシ其地タル石狩
ノ野ニ於テ産ル能ハサル物ヲ生ルノ力アリ而テ其
地廣クシテ多クノ人口ヲ保存スルニ足ル可シ惜ム
ラクハ其業ヲ續分ガルコトヲ

余福士君ノ引分ル此野ノ畧圖ヲ附ス



大政官

大政官

ア
ン
チ
セ
ル
調
書
第
十
一
北
海
道
開
拓
ノ
策

大
政
官

114
A134
2



ア
ン
チ
セル
調
査
第
拾
一

大
正
十
一
年
四
月
限
候
郵
寄
贈

北海道ヲ開キ生産ノ道ヲ起ス事

國ヲ開キ民ヲ移スニ最モ樞要ナル事ニアリ一ハ則

チ兩國内地ト蝦夷トノ間ニ多ク運漕ノ便ヲ開キ往

來ヲ神速安全ニ為スニ在リニハ則チ移民ヲシテ新

地ヲ愛シ之ヲ好マシムベキ勸誘ノ道ヲ設ケ誠實ニ

之ヲ施スニ在リ

第一運漕往來ノ便ヲ開ク事

大
正
十
一
年
四
月

往來ノ便ヲ開クハ最モ簡要ナルヲ余カ弁論ヲ待タ
スシテ明カナル可シ。彼ノ地ヲ開拓スルニハ須ク
本道及ヒ間道數条ヲ開キ島内音信ノ便ニ供シ外ハ
蒸氣船ヲ以テ内地トノ往來ヲ便ニ為ス可シ但シ其
本道并ニ間道ハ過半ヲマク、アダムス路ト為ス可シ又
其蒸氣船ハ出帆前政府ヨリ其船航海ニ安全ナルヤ
否ヲ檢査ス可シ

此等ノ手段ナキハ互市衰微シ食物ヲ輸出入スル
能ハス又土産ノ賣場ナケレハ耕作モ從テ廢止ス石
狩ノ物産ヲ安廉ニ出賣スルヲ能ハサレハ内地及ヒ
其他ノ所ヨリ日用其他奢侈ノ物件ヲ買フノ資ヲ得
ス

第二 勸誘ノ道ヲ設ル事

此道恐ラクハ前件ノ如ク明著ナラサル可シ然レモ
一二ノ事實ニ就テ之ヲ考フルハ忽チ解悟スルヲ
得ベシ。夫レハ州數千ノ民每歲美ノ聯邦ニ來リ此

レヲ墳墓ノ地ニシ以テ餘命ヲ送ル者ハ其故何ソヤ
外邦一日耳曼、アル蘭、佛蘭西又ハ意太里ノ民
タル其本國ニ在ルヤ生産ヲ得ルヲ難ク其子孫ヲ養
育シ之レヲ入學セシムルヲ易カラス而テ其人聯手
ニ来レハ土地ヲ買ベク之カ主ト為ル可シ是レ其本
國ニ於テ能ハサル所ナリ又其身ヲ勞スルカ為メニ
金ヲ得ル本國ヨリ多ク其職タル本國ヨリモ繁クシ
テ絶ルヲナク其家族ニ衣食ヲ給スルヤ欧州ヨリモ

容易ク且ツ公校ニ入學セシムルニ別段ノ失費租税
ナレ而テ其人タル絶ヘス一職或ハ一業ニ従事經營
スルヲ以テ他人ヨリ蔑視セラレ、トナレ是レ他邦
ノ民美國ニ移住スル所以ナリ
若シ其人タル欧州ニ於テ此等ノ便宜ヲ得ルコトアリ
ハ本國ヲ去ルコトアル可カラス又其生産ヲ得ル歐美
共ニ易カラシニハ遠ク異邦ニ移ルノ理ナシ是緣故
ノル可カラス若シ亦一旦移住スルコトアルモ生ヲ安

へル丁能ハサレハ忽チ其本國ニ歸ルナル可シ
 此等ノ道ヲ以テ之ヲ北海道ノ移民ニ施シ不レ言
 ヲ待タスレテ瞭然タリ若レ夫レ日本ノ民其今日ヲ
 送ルノ道北海道モ内地下相等レキヲ思ハ、誰カ墳
 墓ノ地ヲ去ル者アラシヤ而テ政府何等勸誘ノ道ヲ
 設ケ以テ民ヲ新地ニ移サントスルヤ
 夫耕作及ヒ住居ノ為ニ一區ノ地ヲ民ニ自撰セレム
 ルヲ以テ足レリト為スコカテス政府ヨリ移住者ノ

為メニ家ヲ建ルモ勸誘ノ道ニ非ス柳モ彼地ニ移ル
 者ハ職業ヲ為サ、ル可カラス然ラサレハ政府ノ救
 物^助ヲ仰クノミ然レ氏人口増加セサレハ高賣ナシ勸
 誘ノ道ナケレハ民移ラス互市起ル丁ナシ故ニ一軒
 ノ家一區ノ地ハ民ヲシテ彼ノ地ニ移住セシムルノ
 媒故トナル丁ナシ且ツ其家及ヒ其地タル其移住者
 ノ物ニ非ス其所有トナル丁ナシ故ニ人ニ貸ス能ハ
 ス又賣拂フ丁能ハス其家其地ハ政府ノ有ナリ何ノ

時ヲ問ハ不随意之ヲ取上クルヲ得ヘシ亦恐ラク
ハ其地ノ土産盛ナル時ニアラシカ○余索リ政府
此事ヲ為スト云フニ非ス又恐ラクハ此等ノ事ヲ為
スヲナカル可シ然レ氏之ヲ為スノ權アレハ民之
恐ル故ニ今日ノ作業盛太ニ至ルヲ碍妨ス其地ニ居
ル者今年其地其家ヲ毀カシテ以テ改正更好セザル
ハ来歳之ヲ亡ハンヲ恐ルレハナリ
故ニ地取ヲ所持スルノ權理ヲ定ルハ政府ノ策ニ於

テ第一ノ要件トス○若シ移住スル者農夫ナラシニ
ハ政府ニ届スル部礦田ヲ除クノ外何レノ地ヲ問ハ
ス原野ニ於テ一區ノ地ヲ撰ニ取ラシム可シ而テ一
間ニ付幾莫ノ高ヲ納ル上ハ政府ヨリ之ニ地所ノ
賣渡シ證文ヲ与フ可シ之レニ依テ其地ヲ永ク奪ハ
及ヒ其子孫等ニ賜与スル者ナリ但シ其地ノ按ニ依
テ追テ定ムル所ノ地稅ハ之レヲ納ノシム可シ一美
理格ニ於テ官地ヲ賣ル價ハ千二百十坪ニ付一元ニ

ト五厘乃至二元トス）若シ亦其移ル者市人或ハ高
賣ナラシニハ市中ニ於テ住所及ヒ花園ノ為メニ相
當ノ割合ヲ以テ一區ノ町地面ヲ自撰セシム可シ而
テ一間ニ付幾莫ノ高（諸人同一）ヲ拂フ上ハ農人
同様賣渡證文ヲ以テ其地ヲ所持スルノ權理ヲ許与
ス可シ然テ遷居移住ノ者ニハ地ヲ買フノ自由ヲ与
ヘ漏スル有ル可カラス

政府若シ土地ヲ賣渡スルヲ欲セガレハ年限ヲ定メ

至當安慮ノ割合ヲ以テ土地ヲ貸渡ス可シ其年限農
夫ハ二十年市人ハ十年ヨリ以下ナル可カラス而テ
地稅其他ノ諸租稅ヲ實直ニ納ルルハ其地ヲ安穩ニ
所持セシムヘシ蓋シ地所ヲ貸スハ賣渡スカ如ク移
民之レヲ好マザル可シ

政府地ヲ賣リ或ハ之レヲ貸スニ於テ損害アラニ
テ恐ル可カラス如此キ害ハ地ヲ外国人ノ手ニ渡ス
コリ起ル而已故ニ日本人ニシテ賣渡シ或ハ貸与ス

日本人ト外國人トノ地所賣買證文ハ證據トナラズル者ヲ令レ以テ此害ヲ除ク可シ

外國人ニハ幾年日本ニ在留セル后臣トナリ忠ヲ尽ス可ノ誓詞ヲ立ル上ハ歸化スルヲ許ス可シ

当初ハ政府ヨリ移民ヲ救助シ家ヲ建テ或ハ相當ノ價ヲ以テ材木ヲ賣渡シ引當也ヲ以テ定年限中ニ返納セシム可シ

国内ノ租税及ヒ一郡一軒ノ税ハ當初五ヶ年ノ間ハ

務ヲ輕微トナシ移民ヲシテ資本ヲ得自給スルヲ得セシム可シ

義学学校ヲ設ケ大学校ノ法則ト同様ニ為ス可シ

此学校ハ島中人相最モ稠密ナル所ニ分置シ其教授ノ方ハ大学校ト同式ニ為レ以テ大学校ノ管轄ト為ス可シ而テ子ヲ持テル者ニハ嚴命ヲ下レテ其子弟ヲ学校ニ入学セシメ女子モ亦童子同様教授ヲ受ケシム可シ

夫尽ク職業ヲ
勉ムコト

位官最モ願レキ
職ニ就ス

諸般商法ヲ禁
テ除ク

万人差別ニ
テナレ

事ニ當リ物ニ即テ其学ヲ施ス。道ヲ教ヘ以テ歐美
 兩洲ノ「ポリテクニツキ諸術学校ノ式ニ倣ス可レ
 大ニ勧誘ノ道ヲ設テ民ヲシテ各生産ノ道ヲ得セシ
 メ利ノ在ル所之レヲ索メテ新業ヲ起スノ志ヲ奮發
 セシメ依テ以テ仕官ヲ求ルノ意ヲ減却スベシ。各
 商各業ニ禁ヲ立ルコトナク各其意ニ随テ各工各業
 従事セシメ又商業ニ於テ國人ニ許ス所ノ權理ニ歸
 化セザル外國人ト虽トモ等レク之ヲ得セシメ國人

其地ノ役所各
人ノ訴ヲ聽ク

ト組合ニ入ルコトヲ許シ然訴アレハ日本ノ裁判所ニ
 出訴シ又訟ヘラル、コトヲ得セシム可シ
 何的ノ工業一業アラハ以テ庶人ノ手ニ任セズ改
 府獨リ之ヲ行フ可キヤノ議ハ茲ニ論弁ス可キコトニ
 非ス是レ別事ナリ。租税ハ必ス之ヲ取上ク可シ其
 得ル所ノ金以テ政府ノ兩輪用資ヲ支工可シ。食物ハ
 島中ニ於テ作ル可シ。方今政府收納ノ本ハ礦業及
 ヒ漁業ニ在リ

漁業。此業政府収納ノ大本ナリ。國民ト同シク外國人ニモ漁ヲ許サハ愈々盛大ニ至ル可シ。外國人ハ其資本ニ富モ又魚ヲ于レ之ヲ貯ル方ニ巧ニテ且ツヨキ賣場ヲ有出ス可シ。然レハ官庫愈富ム可シ。食物。北海道ハ耕作ニ依テ食物ヲ得ル。其甚々少シ。兩海ノ海濱ニ沿フ漁村ノ食物ハ多ク内地ノ北部ヨリ輸入スル者ナリ。米ヲ賣リ之ヲ分與スルハ政府独リ之ヲ專ニス。此食料ハ他ノ植物同様勝手輸出

ヲ許ス可レ。方今ノ進歩ヲ以テ之レハ蒸氣船鐵道及ヒ傳信機ヲ以テセハ饑饉起ルコトアル可カラス。皇國中何レノ地ヲ論セス米穀ニ乏レキ地ニハ四時ヲ論セス二周間ニ給備スル事ヲ得ベレ。彼地ニ於テ勞ニ報ルニ米ヲ以テスルハ正ム可シ。又錢穀ノ定限ヲ立ツ可カラス。錢幾大一日米幾升或ハ錢幾支ト限ルヲ云フ 鑛山。往昔歐洲ニ於テ寶金銀ヲ開採スルハ独リ國君ノ權ニ在リトセリ。此等ノ鑛類ノ開採スルニ火

益アルヲ以テ政府專ラ之レニ 依頼セル者ト見ヘタ
 リ。英國ニ於テハ 鑛田地ノ産ルハ 王家ノ有トス然
 レ氏親ク之レヲ 開採セズ 聯邦ニ於テハ 耕田地ノハ之
 レヲ 庶人ニ賣渡スト 虽氏曾ラ 墾田ヲ賣レルコトナレ
 然氏全國政府華盛 政府 親ク之レヲ 開採スルコトナレ 兩
 國英 聯ニ於テハ 寶金及ヒ 有用ノ 墾類ヲ 論セズ 庶人社
 ヲ 結テ之レヲ 開採ス政府ノ 免許ヲ 得ラ
 獨賣ノ 權也 採ハ 政府之レヲ 握ランカ 將タ 庶人ニ之ヲ

許サンカノ 議ニ付 甚ク 議論アリ 近ニ 三年前ニ至テ
 此事ニツナカラ 甚ク 害アリトノ 議ニ 決セリ政府專 行スル
 庶人ニ 許ス 然氏 獨リ 專ニスルハ 貿易及ヒ 工業ノ
 上ニ 於テ 自然止ムヲ 得サルノ 勢ニシテ 近ニ 三年未
 茲ニ 一種ノ 工業マリ 其業ヲ 起スヤ 費用莫大ニシテ
 獨リ之ヲ 專ラニシ 他人ノ之レヲ 為スヲ 禁セザレハ
 効ヲ 成シカタク 者アリ 而テ 其工業タル 國ノ 為メニ
 大ニ 益アレハ 敢テ 獨賣ヲ 非トスル 能ハス

大洋往來ノ蒸氣船鐵道傳信機ノ類之レナリ此等ハ
獨リ至當ナル而已ナラス最モ簡要ノ事トス但シ同
アリ誰カ之ヲ專ニス政府独リ專ニセンカ庶人之ヲ
專ニセンカ之レニ答ル甚タ易シ然テ各般ノ業ハ庶
人或ハ會社ノ方資銀ヲ費スコソクシテ利ヲ得ルコ
政府ヨリモ巧ナリ須ク庶人ニ許シテ政府親ク之ヲ
為スナカレ。日本亦此例外ニ非ス政府親ク工業ヲ
起スヨリモ分銀或ハ税ニ依テ利ヲ得ルコ却テ多シ

礦山ノ業モ之レニ倣フ可シ

政府ヨリ庶人ニ獨賣其地ノ權理ヲ與フルハ庶人亦
税ヲ以テ其恩ニ報ス。○擴田ハ賣ル可カラズ只年限
ヲ定メ其引受ル者ニ利徳アル様至當ノ約束ヲ以テ
之ヲ貸スベク其地面ハ相應ノ割合ナル可シ而テ若
シ貸渡ノ后定ノ時日間ニ開採ヲ始メザレハ其地ヲ
取上ク可シ但シ擴田ヨリ取立ル諸税ハ最モ此等ナ
ル可シ。○石炭ヲ産ル地モ擴田ノ中ニ包括ス可シ

政府若シ諸嶺山或ハ石炭及ヒ寶金而已ヲ親ク開採
セント欲セハ嶺山局ヲ取建テ各方採嶺業ヲ一定シ
等シク巧ヲ用ヒ其賦リノ者等私ナキ様之レヲ吟味
スルコト最モ緊要ナル可シ。方今嶺業ハ政府ノ士官
之ヲ監督スト雖トモ其者毫モ開採嶺ノ學ニ達セ
ス亦改正更好ノ術ヲ知ラス故ニ仍令其監督誠意誠
心ヲ以テ行フモ之レヲ為スニ巧ヲ以テセザレハ能
ク効ヲ成スコトナシ。嶺山局ノ主意ハ政府ノ利用ニ

注意シ嶺業ヲ以テ収納ノ高ヲ増サンコトヲ計ルニ在
リ而テ未タ此事ナシ益ヲ起近頃政府ニ於テ親シク
北海道ノ嶺山ヲ開採セルコトナシ此等ノ嶺山必シモ
損アリト為ス可カラス

此嶺山局ノ職務ハ總テ嶺類アルヘキ地方ヲ調ヘ其
有無ヲ明シシ之ヲ簿ニ詳記シ量地官ニ此等ノ土地
ヲ測量セシメ此局ノ令ニ應テ之レヲ開採セシムル
ニ在リ然而此局ノ官負ハ諸方ノ嶺山ヲ見廻リ其業

ノ模様及ヒ進歩ヲ明證シ其所ノ監督ニ怠リアラハ
之レヲ退クルノ權アル可シ又書付勘定各類ヲ檢査
シ總体ノ取扱向ヲ吟味スルノ權アル可シ○此局ノ
官員ハ至當ノ人數ニシテ六ヶ月或ハ十二ヶ月間ノ
諸事取扱振ヲ調へ總躰ノ調書ヲ作ル者トス
又令政府親ク曠山ノ業ヲ掌マザルモ曠山局ヲ建ル
ト緊要ナル可シ

若シ此局ヲ北海道ニ開クノ議ニ決シ之ヲ取建ルニ

至ラハ蝦夷島ノ曠山ノミヲ管轄スルハ是ナラス故
ニ余ハ此局ヲ以テ日本全國曠山ノ諸事ヲ總括セシ
メ賜ハンコヲ勸メント欲ス

右 謹テ賢断ヲ仰ク

トーマス・ア・チセル

千八百七十一年第十二月廿日

千一フ、オスコンシス、シヨシ

ホラシ、カフロン貴下

友政官

Faint vertical text within a red-lined border, likely bleed-through from the reverse side of the page.

